

2 景觀形成方針

2 景観形成方針

2-01 景観形成方針

2-02 5つの柱と12の方針

景観形成方針

景観形成方針とは、今後、官民が連携しながら公共空間と建築物が一体となった魅力的な景観を創出するために、実現すべき将来像の共有を図ることを目的としたものであり、5つの柱と12の方針により構成します。

柱1 公共空間と「まち」のつながり

- 方針1：都心の回遊性の向上
- 方針2：「まち」の特性をふまえた空間構成
- 方針3：官民一体となったにぎわい

柱2 開放感とゆとりを感じる空間

- 方針4：人が主役となる居心地良い空間
- 方針5：海や山・空への広がり

柱3 高質で穏やかなデザイン

- 方針6：高質で穏やかな設え
- 方針7：にぎわいのある上品な夜間景観
- 方針8：地区や通りの特性をふまえた広告物

柱4 新しい神戸の玄関口

- 方針9：三宮交差点の顔づくり
- 方針10：神戸を象徴する空間

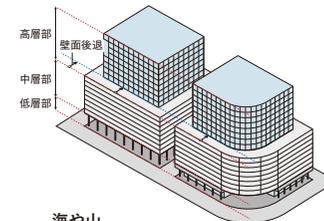
柱5 「海」と「山」をつなぐ シンボルロード

- 方針11：「海」と「山」をつなぐ
- 方針12：統一感がありながら変化を演出



連続性や一体感のある
洗練されたまちなみ

- ・遠景、中景、近景に配慮した建築物のデザイン
- ・壁面位置や軒線の誘導等による一体感のあるまちなみづくり



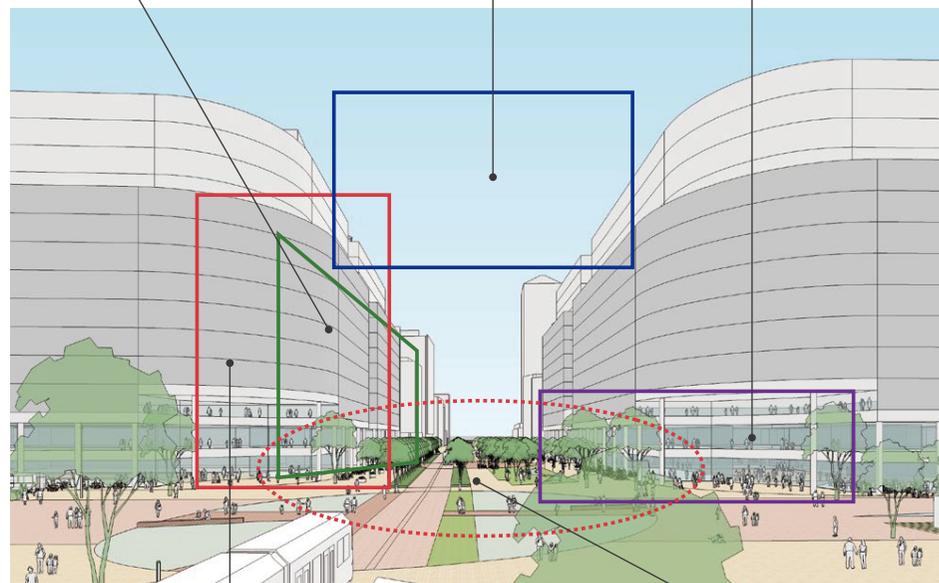
海や山、
空への広がり

- ・海や山、空への見通し景観に配慮したまちなみづくり
- ・高層部のセットバックによる圧迫感の軽減や都市空間の広がり確保



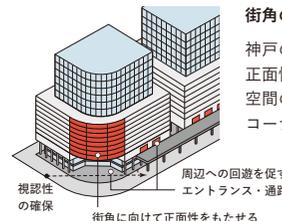
官民一体となったにぎわい

沿道建築物がまちにひらき、公共空間と一体となったにぎわいの創出



街角の顔づくり

神戸の顔を印象付ける
正面性のある軽やかで
空間の広がりを感じられる
コーナーデザイン



視認性の確保
周辺への回遊を促す
エントランス・通路
街角に向けて正面性をもたせる

人が主役となる
居心地の良い空間

人が主役として、
人が活動する様子や
花・緑を引き立たせる
モダンでシンプルな
デザイン

12の5つの柱と方針



柱1 公共空間と「まち」のつながり

「三宮クロススクエア」をはじめとする公共空間は、「えき」からの人の流れを受け止めて、周辺の「まち」につなげる重要な役割を担います。そのため、公共空間と沿道建築物が相互ににぎわいを呼び込むとともに、背後の特色ある「まち」へ向けて、にぎわいが広がるように取り組みます。

方針1：
都心の回遊性の向上

- 通りに開いた開放感のあるエントランスを設ける等、歩いて楽しい空間を創出します。
- 「えき」から「まち」、「まち」から「まち」へのつながりを意識し、わかりやすい縦動線や見通しを確保する等、人の流れを促す動線計画により、都心の回遊性を高める空間を創出します。

方針2：
「まち」の特性を
ふまえた空間構成

- 歴史と用途の違いからくる「まち」の多彩な特性を踏まえた、壁面や低層部のデザイン、植栽の設置や舗装のデザイン等により「まち」の個性を引き立てることで、「まち」のにぎわいに拡がりを持たせます。

方針3：
官民一体となった
にぎわい

- 低層部には大きな開口部やピロティ等のオープンスペースを設ける等により、通りに向けて、にぎわいや空間の広がりを創出します。
- 官民の中間領域における舗装や外構は、道路境界線を意識させない連続性のあるデザインとする等、一体感のある空間を創出します。
- にぎわいの原動力となる用途の施設配置や、エリアマネジメントと連携した人々のアクティビティを誘導する等、公共空間と沿道建築物のにぎわいが相互に呼応する空間を創出します。

柱2 開放感とゆとりを感じる空間

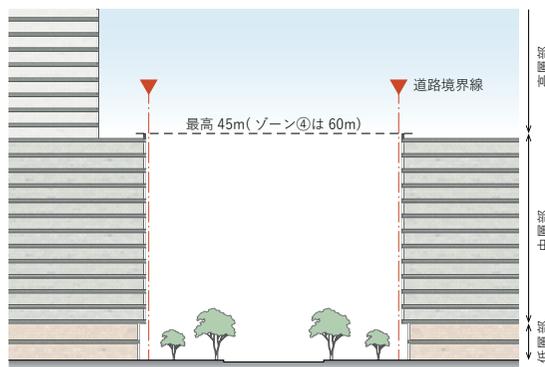
訪れる人々が心地良さを感じるためには、海や山、空への広がりなどの開放感や、空間的なゆとりを体感できることが重要な要素です。そのため、海や山、空への広がりを感じるまちなみを形成し、豊かな自然と都市の活力が共存する、神戸らしさを感じることでできる空間形成に取り組みます。

方針4：
人が主役となる
居心地良い空間

- ・ 居心地良く感じる適度な広がりや囲いのバランスを考えたデザインとします。
- ・ 緑化等により、都心の中の自然やうらおいが感じられる空間を確保します。
- ・ 様々なアクティビティを意識したデザインとすることで、人が滞留し、主役となる空間を創出します。

方針5：
海や山、空への広がり

- ・ 高層部における壁面のセットバックや軽やかなデザイン等により、圧迫感を感じさせない空間を創出します。
- ・ 軒線の高さや壁面位置の誘導、及び頂部デザインの工夫等により、開放感や統一感のある空間を創出します。
- ・ 樹木等をバランスよく配置する等、都心の中の緑と自然の風景が調和する空間を創出します。



柱3 高質で穏やかなデザイン

昼夜を通して訪れる人々の心に残る魅力的な空間とするために、公共空間や建築物、夜間景観、屋外広告物は、それぞれの「まち」の特徴をふまえつつ、神戸らしさが感じられる高質で穏やかなデザインとします。

方針6：
高質で穏やかな設え

- ・ 建築物は、軽やかで細やかなデザインや、素材感を活かした仕上げ、親しみやすい色彩とすることで上質で穏やかなまちなみを創出します。
- ・ 公共空間は、周囲のまちなみや自然環境を引き立たせるデザインや素材とし、一体感のある空間を創出します。

方針7：
にぎわいのある
上品な夜間景観

- ・ 通りに漏れ出る明かりを意識した照明とすることで、建築物から通りへのにぎわいの連続性を演出します。
- ・ 建築物のデザインを活かす照明や、軒線のライトアップによるスカイラインの形成等により、印象的でメリハリのある夜間景観を創出します。
- ・ 通りの連続性を意識した温かみのある照明、植栽のライトアップ等、上品な夜間景観を演出します。

方針8：
地区や通りの特性を
ふまえた広告物

- ・ 「まち」の特性に合わせた形態やデザインとすることで、「まち」が持つ魅力を高めます。
- ・ 公共空間や建築物とのデザインの調和により、空間の一体感と低層部のにぎわいを演出します。

柱4 新しい神戸の玄関口

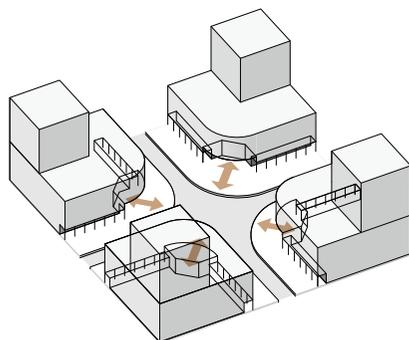
「えき≈まち空間」は、それぞれの「まち」に繋がる玄関口であり、神戸“三宮”を印象づける新しい顔となります。そのため、公共空間と沿道建築物とが、互いに向き合い一体感を持った空間とし、神戸を象徴するような景観形成に取り組みます。

方針9： 三宮交差点の顔づくり

- 三宮交差点を形成する建築物は、神戸の顔を印象付ける軽やかで空間の拡がりを感じられる、正面性のあるコーナーデザインとします。
- 三宮交差点に向けてエントランスや見通しを確保する等、にぎわいが相互に呼応する神戸を象徴する街角を形成します。
- 公共空間は、建物コーナー部の空間との連続性、向かい合う建物どうしの見通しを遮らないデザインとする等、神戸の中心にふさわしい空間を創出します。

方針10： 神戸を象徴する空間

- 神戸の玄関口として上質で洗練されたデザインと、にぎわいやゆとりを感じる空間とすることで、新しい神戸への驚きと心地良さを感じることができる象徴的な空間を創出します。



柱5 「海」と「山」をつなぐシンボルロード

税関線は新神戸からウォーターフロントをつなぐ都市軸として、「海」と「山」、「えき」と「まち」のつながりを意識し、人の流れを促す空間を創出します。そのため、沿道の施設と連携しながら、新たなシンボルロードとなるような景観形成に取り組みます。

方針11： 「海」と「山」をつなぐ

- 都心から望む六甲山の山並み等の良好な眺望を意識し、開放感と統一感のある空間を創出します。
- 「自然を感じる草花植栽」と「花によるアート空間」を組み合わせることで、フラワーロードの愛称にふさわしい彩りをあたえます。
- まちなみやにぎわいの連続性を確保し、「海」と「山」のつながりを演出することで、回遊性の向上を図ります。

方針12： 統一感がありながら 変化を演出

- 周辺のまちなみや自然環境を引き立たせる建築物等や舗装、植栽のデザイン等により、統一感のあるまちなみを形成するよう誘導します。
- 統一感がありながら、場所ごとに公共空間での様々なアクティビティや彩りのある花等が楽しめるような変化を演出します。